

2022 ANNUAL REPORT

— 2022年度事業報告書 —

2022年4月～2023年3月



2023年5月総会にて



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

2022年度を振り返って

2022年度は、コロナ禍による交流制限は継続していたものの、マスクの着用義務が解除されるなど、少しずつ日常を取り戻し始めた1年となりました。人々の行動様式や価値観が変化する中、「居場所と役割の創出」といったCS神戸としての役割を堅持しつつ、新たな取り組みにもチャレンジしました。

1つ目は、「NPO・地域貢献活動フェア」の実施です。慢性的に人材不足に陥っているNPOと、関心はあるものの活動にはいたっていない市民とのマッチングを促進する目的で、神戸市とともに市内5か所で実施しました。NPO74団体がブース出展し、一般市民335名が参加、うち113名が活動者になるという大きな成果を得ることができました。

2つ目は、オリジナル「組織診断ツール」の開発です。第三者から得る評価ではなく、自らが組織の強み・弱みに気づき、課題の見える化をお手伝いするもので、「NPO版」と「都市型居場所版」の2種類を作成・活用しました。

3つ目は、新たに法制度化された労働者協同組合についての研究の着手です。協同出資・協同労働・協同経営の理念をどう地域コミュニティの運営に取り入れ、助け合いの地域社会に結びつけるのか、先進事例に学びつつ、実践に移しています。

また、これまでどおり「情報提供・相談」から「活動者およびグループの創出」に至るフェーズを、市内6拠点においてそれぞれが連携しながら担いました。特に2020年に灘区大和公園内に自前で設置した「地域共生拠点・あすパーク」では、のべ利用者が2万人に達するなど、セクターを超えた多様なプロジェクトを生み出し続けています。それら6拠点のシナジー効果を法人としてどのように高めていくかが、今後の課題です。

2022年度に寄せていただいた様々な応援に改めて感謝するとともに、これからも「自立と共生」のミッションを軸に「誰にも居場所と役割がある地域社会」を目指し、皆さまとともに進んでまいりたいと思います。引き続き、どうぞよろしくお願いたします。

2022年度の実績と成果

実績	新規相談者数	1,287名
	講座数	237本
	受講人数	3,057人
成果	立ち上げ団体数	46団体
	新規活動者数	623名



理事長 中村順子 事務局長 飛田敦子



「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します。

2022

ANNUAL REPORT 2022年度事業報告書

●2022年度を振り返って……………	2	●まちづくりスポット神戸……………	8
●Topics 1 助け合いプラットフォーム……………	3	●生きがい活動ステーション……………	8
●Topics 2 兵庫型シニアショートワーク事業……………	3	●神戸市コミュニティ相談センター……………	9
●Topics 3 NPO・地域貢献活動フェア……………	4	●神戸市立JR住吉駅前自転車駐車場……………	9
●Topics 4 神戸市課題解決NPO相談窓口 居場所立ち上げ・運営支援……………	6	●介護保険地域密着型サービス第三者評価事業……………	9
●Topics 5 地域共生拠点・あすパーク……………	7	●決算報告／ポートフォリオ……………	10
●生きがいしごとサポートセンター神戸 神戸市NPO法人設立運営相談窓口……………	8	●2023年度に向けて／組織図／事業所マップ……………	11
		●役員・会員・寄付者一覧……………	12

2022年度
Topics

1

何歳になっても地域で安心して暮らし続ける仕組みづくり

助け合いプラットフォーム (ニッセイ財団助成事業)**ニーズ調査から3団体が立ち上がりました!**

厚労省が提唱する「地域包括ケアシステム」の「共助」部分を充実させるために、東灘区・灘区にて次の2点の取り組みを行いました。

1点目は、高齢者が地域で安心して暮らすために必要な地域活動団体の立ち上げです。大きな特徴は、事業の開始にあたりニーズ調査を行ったことです。対象地域にて全17か所のうち計16か所の地域包括支援センターにヒアリングをし、介護保険適用外のニーズや、地域包括支援センタースタッフの業務のうち市民グループが担える内容について聞き取りをしました。その結果、気軽に集える居場所や、身近な公園でできる健康づくりの活動にニーズがあることが分かりました。東灘区・灘区のそれぞれで団体立ち上げを目的とした地域活動の人材養成講座を実施し、東灘区で2団体、灘区で1団体が身近な公園でできる健康づくりの活動や、地域をウォーキングする活動を継続しています。

2点目は、神戸市への提案書の提出です。学識経験者、地域包括支援センター職員、介護者等からなる「地域包括ケアシステム神戸市民版自主研究会」を7回開催し、地



そろそろ運動会(ラジオ体操)

域包括支援センターへのヒアリングで明らかになった点も含めて、市民目線で議論を重ねました。そして最終的に、①地域における「公助」および「共助」の情報の一元化、②地域包括支援センターの会議への一般市民の参加、③「共助」を担う団体を創出するための人材養成講座の実施の3点にまとめ、神戸市へ提案しました。今後も地域包括ケアシステムが目標としている2025年に向けて、行政と市民セクターの協働により、一人暮らしになっても、認知症になっても地域で安心して暮らせる地域づくりを進めていきます。

2022年度
Topics

2

退職後のシニアが地域再生の担い手に!

兵庫型シニアショートワーク事業 (兵庫県雇用開発協会委託事業)**内田樹氏講演会を実施、
協働労働への取り組みもスタート!**

シニアの就労機会づくりに向けて活動する本事業は、今年度2つの啓発セミナーを実施しました。まず10月には、地域コミュニティの再生をテーマに内田樹氏講演会を開催しました。参加者は130名と非常に関心が高く、シニアに向けて地域再生の担い手になりませんか、との呼びかけを広く届けることができました。

また、3月には新しく施行された「労働者協同組合法」に合わせて「協働労働セミナー」を開催し、先進地の広島から講師を招聘しました。協働労働は、出資・運営・労働のすべてを構成員が担うという新しい働き方で、地域の幅広い分野で生じる多様なニーズを仕事にし、解決する手段として注目されています。協働労働の理念や先進事例を学んだ本セミナーは、参加者の共感も高く、2023年度の「協働労働・ミニワーカーズ実践塾」に引き継がれています。今後はワーカーズ方式による立ち上げ支援にも積極的に取り組む予定です。



130名が参加した内田樹氏講演会



協働労働セミナー

2022年度
Topics

3

NPOと市民の出会いの場

NPO・地域貢献活動フェア (神戸市委託事業)

地域貢献に興味がある市民335名が参加しました!

「知って! 出会って! 体験する!」をキャッチフレーズに、1月下旬に神戸市内5か所で、初めての「NPO・地域貢献活動フェア」を開催しました。この事業の目的は、地域の課題解決に取り組む、こども食堂・地域の居場所・多文化共生・スポーツ文化振興・環境保全などのNPO等の人材不足を解消することにあります。市内を5つのエリアに分け、エリアごとにその地域の実情をよく知る「コーディネーター団体」にご協力いただき、ブースを出展したNPO系74団体が参加者に活動をPRしました。

地域活動に関心のある来場者は、①まずは自分の地域にどのような活動があるかを「知り」 ②自分がやってみたい、できそうな活動と「出会い」 ③実際にトライアルとして現場での「体験」を行いました。

その結果、フェアに参加した9割の団体がトライアルを受け入れることができ、そのうち7割近くの団体が継続して活動できる人材を獲得できたという非常に高い成果を得ました。このことから、地域活動に関心はあるもののまだ活動できていない人が大勢存在し、①～③の流れは、そのような層と地域活動団体の現場を結びつける極めて有効な手立てになったといえます。

今回のフェアは神戸市が主催、CS神戸が企画運営を担いました。行政の「信頼」という強みと、NPOの「企画力」「ネットワーク力」という強みを活かすことで、効果的にNPOと市民の出会いの場を創出することができました。



東灘・灘エリアの会場の様子



社会貢献活動に関する動画上映



各ブースで活動紹介やトライアルの日程調整

	エリアコーディネーター 5団体	NPOフェア参加団体 74団体	NPOフェア参加者 335名	トライアル(活動体験) 268件	
統括事務局 CS神戸	東灘区・灘区				活動継続者数 113名 人材獲得団体 51団体
	▶ 一般社団法人 SAZARE	▶ 17団体	▶ 53名	▶ 49件	
	中央区・兵庫区・長田区				
	▶ NPO法人 Oneself	▶ 14団体	▶ 93名	▶ 91件	
	北区				
	▶ 社会福祉法人弘陵福祉会	▶ 15団体	▶ 53名	▶ 42件	
須磨区・垂水区					
▶ NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん	▶ 14団体	▶ 102名	▶ 54件		
西区					
▶ 智雲ボランティア活動研究所	▶ 14団体	▶ 34名	▶ 32件		

中央・兵庫・長田 エリアコーディネーター

NPO法人Oneself

理事長 中野みゆきさん

当団体は、外国にルーツを持つ方と地域の方を繋ぐという活動が主でしたので、エリアコーディネーターとして多様な団体さんとやりとりできたことは、とても学びになりました。フェア当日はどこのブースにもぎわっていて、活気のある場となってよかったです。一方で、自主事業では味わうことのない責任感・緊張感もありました。スタッフ間で「どうしたらいいフェアにできるか」と対話を重ねる中で、新しい仲間の考え方を知る機会にもなりました。



参加団体

NPO法人インクルひろば

理事長 松岡 喜久子さん

情報発信力が小さい私たちの団体にとってはたいへんありがたい企画でした。多くの方に当団体のことを伝えることができました。同じ地域の他の団体に出会えたこともよかったです。NPOフェアの体験後も多くの方々に継続的に色々な活動に参加していただくととても助かっています。人の輪が広がり嬉しく思っています。ありがとうございました。



会場で上映した動画「神戸市内の地域貢献活動の紹介」をインターネットで公開しています。

地域貢献活動の現場の様子、スタッフのインタビュー、利用者の声を紹介しています。動画を見た参加者からは「いろんな分野の活動があることがわかった」「自分にもできそうな活動があった」といった感想がありました。フェア当日の会場の様子や参加者インタビューも、あわせてご覧ください。

地域貢献活動の紹介
(14分)<https://youtu.be/BAQJj07jrgl>フェア当日の様子
(1分)<https://youtu.be/BAQJj07jrgl>

◆NPOフェア参加団体

一般社団法人食べる健康プラットフォーム、認定NPO法人ケアット、認定NPO法人東灘地域助け合いネットワーク、NPO法人サポートステーション灘・つどいの家、つばめの会、NPO法人神戸ロボットクラブ、東灘こどもカフェ、食親同好会、NPO法人実用日本語教育推進協会、悠悠緩ゆるりのんびりむすかり、NPO法人花たば、NPO法人子育て支援ネットワークあい、放課後スマイル、NPO法人きょうどうのわ、あすパークこどもリビング、みんなの居場所きらきらぼし、NPO法人福祉ネット寿、一般社団法人BokkJambaar、エンゼルス、NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト、NPO法人Oneself、こどもワクワク食堂、NPO法人多言語センターFACIL、認定NPO法人まなびと、NPO法人神戸定住外国人支援センター、認定NPO法人こうのりのゆりかごin関西、一般社団法人コロコロおむすび、おるおるステーション、認定NPO法人しみんな基金・こうべ、NPO法人リーフグリーン、NPO法人KOBEO観光ガイドボランティア、NPO法人日本ふるさと文化の会、NPO法人りぐこうべ兵庫、NPO法人Peace & Nature、NPO法人インクルひろば、神戸医療生活協同組合北区支部ペコロス班、社会福祉法人弘陵福祉会、NPO法人神戸こども食堂ネットワーク、ゆうわ福祉会野いちごの会、やすらぎの里神戸赤松、ボランティアセンターこだま、NPO法人成年後見こうべきずな、NPO法人神戸の絆2005、一般社団法人MOKOん家、社会福祉法人かがやき神戸、こどもゆめBOX、センターかけはし、NPO法人福祉ネット星が丘、NPO法人ゆいまーる神戸、NPO法人ヘルパーGOGO、ホーリーツリ西部、NPO法人ふぉーらいふ、NPO法人Life&Hope、NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん、NPO法人薫風、ホープの会、NPO法人ガーデンシティ舞多聞倶楽部、ミャンマー-KOBE、松風児童館、メイクユースマイル神戸、なかよしサロン、社会福祉法人平野福祉会平野ふれあい食堂、学園東町まちバスを走らせる会、コミュニティいばしよ、コミュニティぐらん、神戸学園都市高塚山を愛する会、神戸みらい学習室、一般社団法人さとのわ、高和みんなの居場所、NPO法人コミュニティかりば、子どもと高齢者マッチングサークル、富士見が丘コミレス、NPO法人輝かりば

(合計74団体)

2022年度
Topics

4

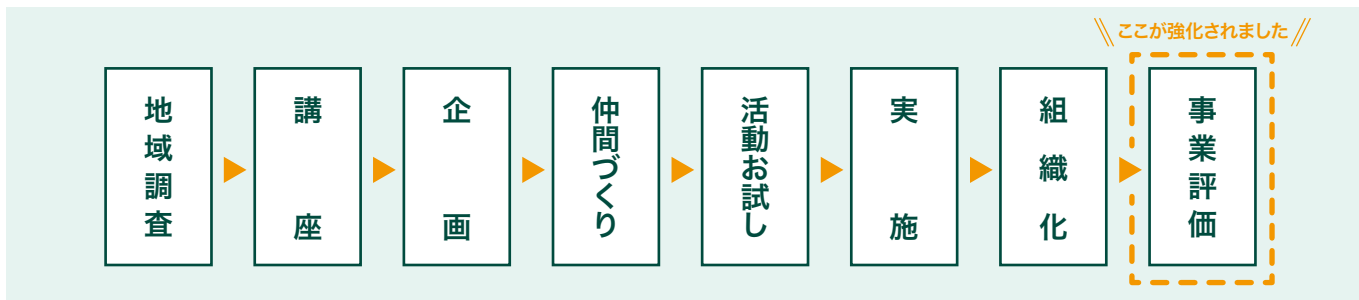
組織の”いま”を自己診断

神戸市課題解決NPO相談窓口 (神戸市委託事業)

居場所立ち上げ・運営支援 (近畿ろうきん助成、さわやか福祉財団協力)

NPOや居場所の自己診断ツールができました!

兵庫県立大学のNPO研究連携センターの協力を得て地域の居場所向けと、NPO全分野向けのオリジナルの組織診断ツールを開発しました。組織運営の現状を把握し、達成できていることを自らが認めるとともに、今後改善したいポイントについて具体的な改善策を考えるきっかけとなるツールです。CS神戸における団体の立ち上げ・運営支援の中において、最後の「評価」部分がこれまで十分とは言えませんでした。2つの評価ツールにより、評価フェーズの支援を強化することができました。



1. 居場所の「組織診断チェックシート」

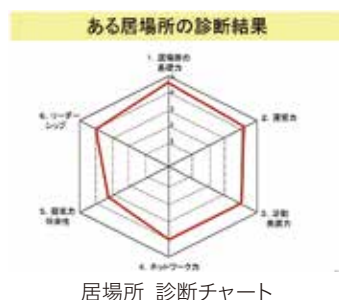
コミュニティの機能が弱まり、人と人とのつながりが希薄になる中、気軽に立ち寄ってゆるやかな交流ができる地域の「居場所」の役割はますます重要になってきています。居場所が組織力を高めることで、継続的な活動を行うことができ、地域のセーフティネットになることができます。

兵庫県立大学NPO研究連携センター、智雲ボランティア活動研究所、NPO法人きょうどうのわ、CS神戸による「神戸の居場所調査研究会」は2016年から調査研究を行っており、2022年度は共同研究の成果として「都市型居場所つながりづくりワークブック」を作成しました。その中に、居場所の組織運営の現状を示す「居場所の組織診断チェックシート」を掲載しています。6つのテーマ、30の項目から成るチェックシートで、自己診断することで組織運営の「いま」を見える化することができます。

また、2022年8月にはこのチェックシートを使い、「第7回居場所サミット in 神戸」を開催しました。神戸を中心とした全国からの参加者111名全員で自己診断を行いました。



『居場所のつながりづくりワークブック』



居場所_診断チャート

2. 課題解決に取り組むNPOの「自己診断カルテ」

神戸市からの委託で「地域課題に取り組むNPO等に対する運営支援業務」を実施しました。神戸市の補助金の受託団体に対し、伴走支援をするというもので、98の補助団体のうち44団体が自己診断カルテによる組織診断を行いました。

カルテ診断を踏まえた個別相談では、団体の自己診断に加え、事業報告や会計報告といった補足資料も踏まえて分析を行い、団体が克服したい課題に対する具体的な改善提案を行いました。団体はCS神戸からの提案を持ち帰り、団体内で検討した上で実行可能な改善策を「実行計画シート」にまとめました。

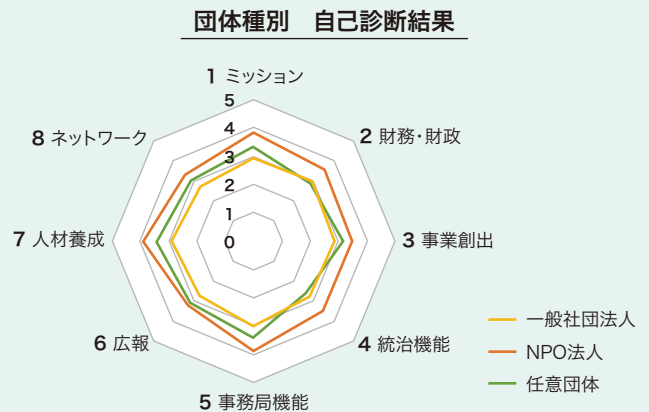
また、事業の集大成として、各団体が実行計画を持ち寄り、課題解決に対するアイデアを交換する「グループ相談会」を市内3か所で開催しました。各参加者が実行計画を進める上での困り事を共有すると、他の参加者やCS神戸スタッフから改善のためのアイデアがたくさん出されました。参加者による活発な学び合いができ、互いのエンパワメントにつながりました。



自己診断カルテ_多くの意見が出されたグループ相談

地域課題に取り組むNPO等に対する運営支援のための自己診断カルテ 団体組織別の傾向

44団体の自己診断結果を団体種別にデータ化したところ、NPO法人は8項目全てにおいて一般社団法人や任意団体よりも高い得点となりました。特に「財務・財政」、「統治機能」、「事務局機能」については大きく上回る結果となりました。NPO法人に義務付けられている情報公開や説明責任を果たす過程でこれらの機能が備わっていると考えられます。NPO法人格を取得することは、組織基盤強化に一定程度つながっていると言えます。



法人種別	1 ミッション	2 財務・財政	3 事業創出	4 統治機能	5 事務局機能	6 広報	7 人材養成	8 ネットワーク	全項目平均
NPO法人	3.9	3.6	3.5	3.5	4.0	3.2	3.9	3.4	3.6
一般社団法人	3.0	3.0	2.9	2.8	3.0	2.7	2.9	2.7	2.9
任意団体	3.4	2.9	3.2	2.6	3.4	3.2	3.4	3.1	3.2

2022年度
Topics

5

地域課題解決のためのトライアル拠点

地域共生拠点・あすパーク (自主事業)

来館者2万人を達成しました！

2020年4月にオープンしたあすパークは、皆さんのおかげで子どもから大人まで多様な方々に来所いただく拠点となり、2023年3月には延べ来館者2万人を達成しました！

2万人達成に大きく貢献したのが「こどもボランティアカード」の取り組みです。子どもたちがあすパークで簡単なお手伝いをする毎にシールを1枚貼り、5枚でお菓子のプレゼントをしています。現在の登録数は380名を超え、居合わせた大人が子どもたちを見守るなど、良い循環ができています。

あすパークの目標は2点あります。1点目は地域課題に対応する団体を創出することです。こどもの貧困、フードロスの増加、ケアラーの孤立など、地域課題は多様化・複雑化の一途を辿り、経済的格差の拡大が拍車をかけていま

す。これらの地域課題を改善する取り組みをあすパーク主導で立ち上げ、参加者によるグループ化をすすめ、運営の自立を推すことで、地域活動団体が多く存在する地域づくりを目指します。

2点目は孤独・孤立が課題になる中、地域のつながりづくりの拠点になることです。気軽に「助けて」と言ってもらえる拠点、そして障がいや認知症の有無に関わらず誰もが好きなことを活かして他者の役に立ち、自己有用性や生きがいを感じられる地域を目指して楽しく活動を続けています。

CS神戸の原点である、阪神淡路大震災での「水くみ110番」や助け合い活動は、公園を拠点に行われました。今後も誰もが立ち寄りやすい立地を活かし、企業や学校などと協働しながら新たな活動を生み出しています。



3周年イベントでのスタッフ集合写真



わいわい食堂のメンバー

“ハタラク”をつくる

生きがいごとサポートセンター神戸(兵庫県補助事業) / 神戸市NPO法人設立運営相談窓口(神戸市委託事業)

2022年度の生きがいごとサポートセンター神戸(ワラビー)は、起業・就業の相談窓口として、神戸市内に東部窓口(法人本部)と西部窓口(まちスポ)を設置。淡路島では地元の協力団体と連携し窓口をつくり、より近くで気軽に相談ができる体制をつくりました。

コミュニティジョブ支援事業「働くシニア支援ステーション」としてシニア向けの起業・就業セミナーの開催、また人材育成として、受講者がステップを踏みながら学び立ち上がれるようなCB起業セミナーを開催しました。今年度は、起業相談数413件のうち起業団体数41団体、就業相談数785人のうち就業者56名を支援出来ました。

神戸市NPO法人設立運営相談窓口では、例年どおりNPO設立および運営サポートを行いました。相談を受け

て、15団体がNPO法人となりました。運営セミナーでは資金調達に特化したセミナーや交流会、総会を目前にしたNPOなんでも相談会を開催しました。また、NPO設立後6ヵ月を経過した団体へのエール訪問も実施しました。



CB起業セミナー風景

商業施設で生まれる新しいコミュニティ

まちづくりスポット神戸(大和リース(株)との協働事業)

2022年4月より新たに「生きがいごとサポートセンター神戸」「神戸NPO設立相談窓口」の西部窓口として中間支援の幅を大きく広げることが出来ました。様々な入口からまちスポに来られる相談者が増え、主に神戸市西部の新たな市民層と関係を構築できたことで、登録会員の数も昨年より11団体増え93団体となりました。

また、予約図書受取コーナー・まちスポらば開室3周年を記念して読み聞かせの活動をされている様々な地域団体の方と一緒に「読み聞かせ大集合」のイベントを開催しました。お天気にも恵まれ、たくさんのブースを回る子どもたちで賑わいました。

また、地域ケア会議、コープこうべの「つながるミーティ

ング」など地域での連携や垂水マスターズ・ゼミや伊川谷高校のシンポジウムでのファシリテーションなど外部講師の活動も広げることができました。今後も地域で人が出会い、繋がる場を私たちもフラットな立場で構築していきたいです。



読み聞かせ大集合

「人」と「地域」の縁結び

生きがい活動ステーション((公財)神戸市民文化振興財団との協働事業)

「生きがい活動ステーション」(以下「生き活」)は6月に8周年を迎えました。フロアでのお声掛けも復活し、情報提供者数は6,589名(昨年度比117%)と回復しました。相談件数は3,333件(昨年度比98.4%)と若干減少し、ボランティアマッチング数も105名(昨年度比92%)となりましたが、一方で新規登録者数280件(昨年度比104%)、立ち上げ団体13件(昨年度比144%)と増加しました。

特にシニアが活躍できるボランティアグループの立ち上げを目指し、「紙芝居サロン」「お手紙クラブ」「ぶらり火よう日」を立ち上げることができました。

また、昨年度に引き続き兵庫区文化センターで「地域貢

献ゼミナール」を開催し、地域の居場所として「笑顔サンサン」と「ほほえみの集い」が立ち上がりました。



紙芝居サロン

『ご近所』をサポートします！

神戸市コミュニティ相談センター (神戸市委託事業/神戸市自治会連絡協議会との協働)

神戸市自治会連絡協議会との共同事業体として神戸市からの委託を受け、4年目になりました。2022年度は相談件数が144件あり、相談の特徴としてコロナに直接関する内容はなくなり、対面による総会開催に関する相談、防犯カメラの設置や防災活動、イベント開催の相談がありました。活動制限の緩和により、自治会活動が再開され始めていることを感じました。

研修や講座は積極的に地域に出向き、アウトリーチ手法で開催した結果、これまでより大幅に参加者が増えました。特に自治会役員初任者研修では、行政窓口や相談先の情報をまとめたテキストが好評だったこと、そして各区での開催を希望する声が寄せられました。

また、新たな取組みとしてICT活用の勉強会を開催し、自治会におけるICT導入の課題や場面を認識しました。

神戸市自治会連絡協議会ではコロナ禍により延期されていた設立40周年式典を7月1日に開催し、次の10年につながる節目となりました。2021年より始めた「あいさつ・

声かけ委員会」の活動推進のため、補助金の獲得や神戸大学の学生ボランティア団体「まちプロ」との共同をサポートし、幟や腕章などを作成しました。



自治会役員初任者研修(西区)



あいさつ・声かけ運動腕章

地域に愛される見守りステーション

神戸市立 JR 住吉駅前自転車駐車場 (神戸市指定管理事業)

神戸市指定管理事業の第5期の2年度目です。新しい取り組みでキャッシュレスシステム導入をスタートさせました(2022年1月開始)。ホームページからの定期申請メール・業務連絡メール、ZOOMによるオンライン会議の開催など、WEB/オンライン活用も始めています。

2022年度は長年使い続けたユニフォームを新調し、経年劣化していた駐輪場の各種看板を神戸市指定デザインにリニューアルしたことで、職場環境がリフレッシュされました。

「駅前見守りサイクルステーション」として、認知症SOSネットワーク探索協力、障がい者や駅前店舗などと協働し駅前清掃ボランティア活動を実施。店舗、地域団体と連携

(駅前店舗等10団体から参加30名)して「認知症を優しく包むまちづくり講座」開催し、地域連携にも取り組んでいます。



認知症にやさしいまちづくり講座

質の高い評価の継続

介護保険地域密着型サービス第三者評価事業 (自主事業)

CS神戸は2012年度から兵庫県の認証を受けて、介護保険の地域密着型サービス(グループホーム等)を対象とする第三者評価機関となっています。利用者である市民の目線と地域のグループホームを応援する姿勢で行った現地調査の結果を、徹底した評価員の合議によって取りまとめ、職員を元気にする独自の評価報告書を添えて事業所に送り、評価結果をWAMNETのホームページ上に公開し

ています。2021年度の制度改定で、グループホームの評価が外部評価機関によらず運営推進会議(内部組織)による評価でも良いことになりましたが、今のところ客観性の担保された外部評価機関による評価がまだ主流です。2022年度は前年度(28件)を上回る34件もの評価依頼がありました。評価員の増員を含め今後もCS神戸らしい高質で丁寧な評価に取り組めます。

2022年度決算報告

※詳細版はCS神戸のHPに掲載しています

貸借対照表

資産の部		負債の部	
1.流動資産	57,915,042	1.流動負債	11,020,505
(1)現金・預金	51,385,032		0
(2)その他流動資産	6,530,010	負債合計	11,020,505
2.固定資産	40,357,231	正味財産の部	
(1)有形固定資産	21,707,139	前期繰越正味財産	82,113,970
(2)無形固定資産	275,960	当期正味財産増減	3,276,811
(3)投資その他の資産	16,513,145	正味財産合計	85,390,781
資産合計	96,411,286B	負債及び正味財産合計	96,411,286

活動計算書

科目	金額	科目	金額
I. 経常収益		II. 経常費用	
1. 受取会費	597,000	1. 事業費	74,651,409
2. 受取寄付金	11,141,925	2. 管理費	14,628,511
3. 受取助成金等	13,476,207	経常費用計	89,279,920
4. 事業収入	66,402,863	当期正味財産増減額	3,276,811
5. その他収益	938,736	前期繰越正味財産額	82,113,970
経常収益計	92,556,731	次期繰越正味財産額	85,390,781

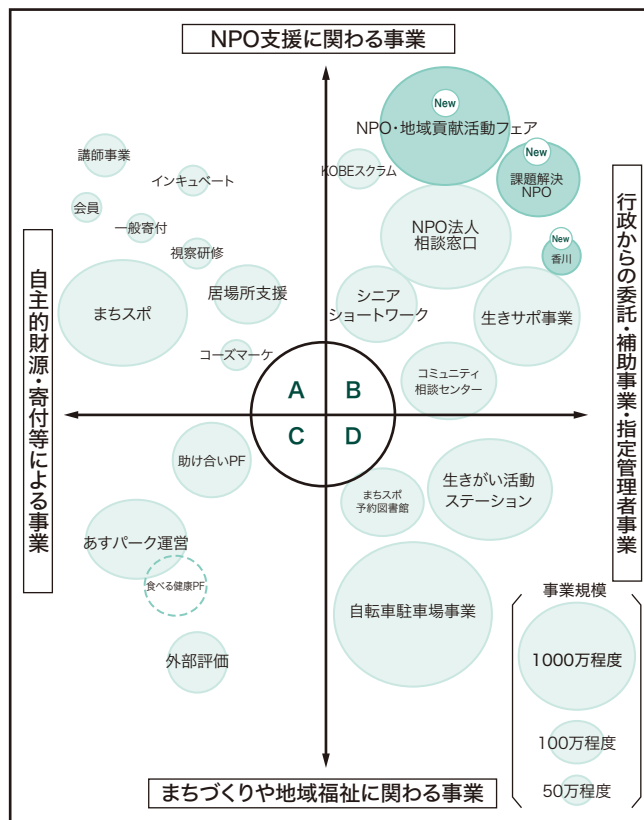
※固定資産の一部と賛助会費の8割を充当している「市民活動サポート基金」は、9団体に合計720,000円の助成金を交付しました。

[あすパ・ユース震災語り部隊/エンゼルス/認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネットこうべ/スタジオ・カチンコ]
 [一般社団法人みどり・人・まち研究所/音遊びの会/NPO法人薫風/ザ・サードプレイス神戸/NPO法人ピュアコスモ]

2022年度ポートフォリオ

CS神戸における事業構成 2022年度決算

総額：9255万円



2023年度に向けて

「自立と共生」の原点を意識し、他の団体と共に中間支援機能を高め、社会参加する市民を増やし、課題解決にあたる団体が多様に生み出されるよう、以下の基本方針をもって、取り組みをすすめます。

重点目標

1. 目指す地域ビジョンの共有

課題解決型NPOと交流型地域団体がそれぞれの特性を活かし合い協働しながら、誰もが地域に居場所と役割が持てるよう地域ビジョンを共有し、企業等にも幅広く働きかけます。

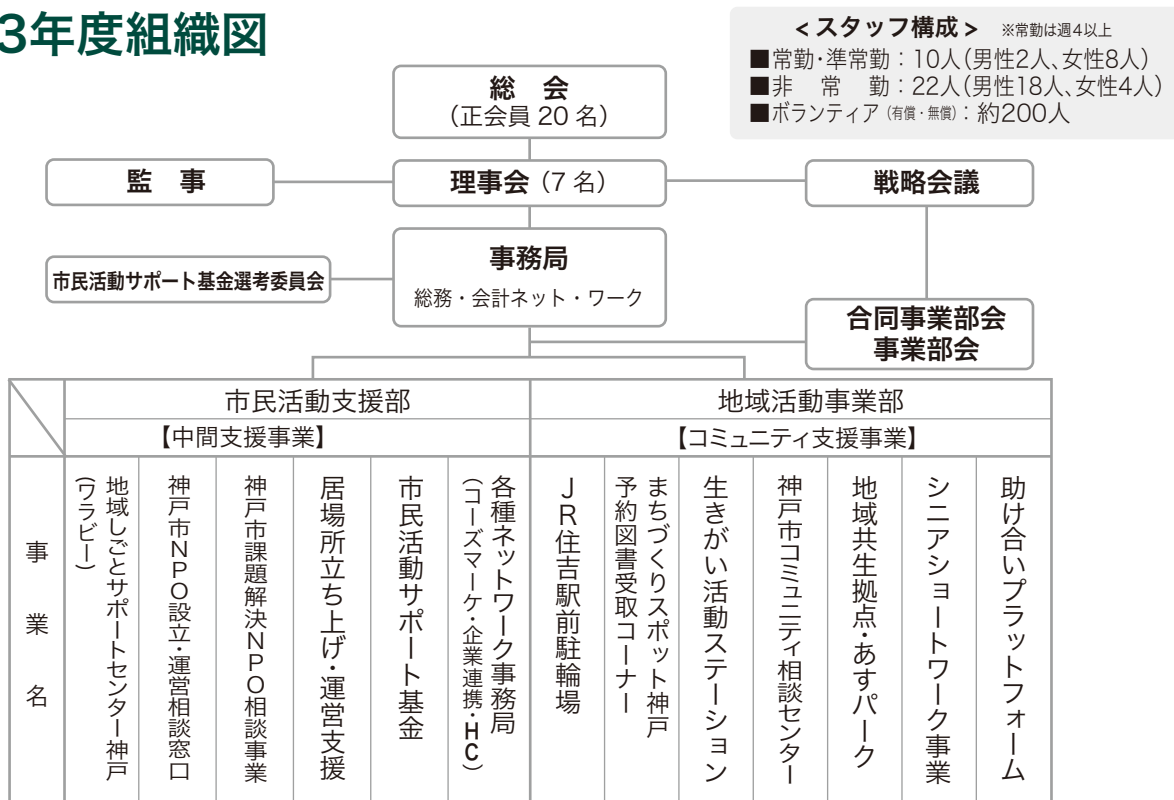
2. 中間支援機能の強化

CS神戸の6拠点すべてにおいて、ニーズ把握から相談、学び、グループづくりまでのプロセスがサポートできるよう、スタッフの支援力を高めます。また、既存団体の中に地域性やテーマ性を重視した中間支援機能の涵養を支援します。

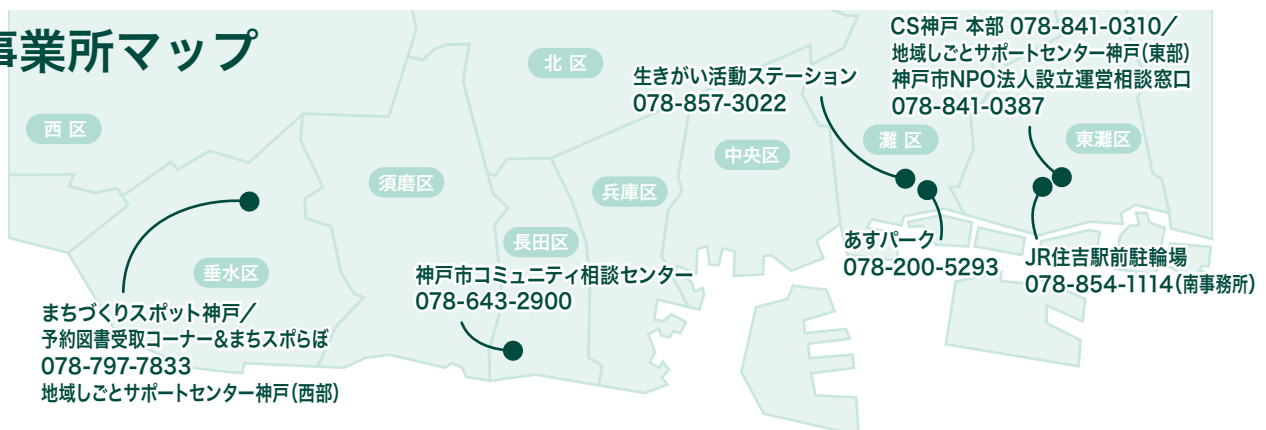
3. 多様なグループの創出

従来のNPO法人や一般社団法人、任意団体に加え、協同労働を実践する労働者協同組合も有効な法人形態として推進し、非営利セクターの多様性を支援します。

2023年度組織図



事業所マップ



役員・会員・寄付者一覧

■役員

理事長	中村 順子	
副理事長	星野 裕志	九州大学大学院経済学府 教授
	佐藤 友美子	学校法人追手門学院 理事
理事	尾花 弘教	株式会社ウェルアップ代表取締役
	小室 邦夫	ヒューマンスキル研究所 主宰
	當間 克雄	兵庫県立大学大学院社会科学研究所 教授
	飛田 敦子	コミュニティ・サポートセンター神戸
監事	井上 隆文	元・神戸市職員
	奥村 一人	コンサルティングオフィスK 代表

■会員一覧(順不同・敬称略) ※2022年4月～2023年3月

正会員(21名) 足立 勝/岡本 仁宏/佐藤 友美子/小室 邦夫/坂本 登/中村 順子/立田 英雄/當間 克雄
川島 龍一/長谷川 京子/飛田 敦子/藤原 和男/星野 裕志/松下 忠義/朴木 佳緒留/池田 拓也/尾花 弘教
奥村 一人/井上 隆文/上田 理恵子/佐合 純

賛助会員・個人(79名) 内田 満夫/西田 幸夫/藤本 傑士/有友 ひとみ/植戸 貴子/蒲田 尚史/東郷 寛
長田 幸一郎/山村 弘美/丸本 恭子/平田 富士男/古結 洋子/高橋 貴之/松本 吉一/小林 るみ子
直田 春夫/山内 延浩/川瀬 明彦/金川 宏/原 祥隆/林 祐介/保元 温/畑中 進/村上 義弘/尾山 宗久
四宮 一夫/小林 清隆/上野 恭男/大和 三重/山本 好克/西池 陽一/増金 祐次
大久保 和雄/落合 弘/長澤 マリ/藤本 隆/朝山 日出夫/上田 正也/津田 久雄
新庄 達也/井筒 眞弓/小林 義徳/浜田 宏樹/吉本 隆光/大西 佐知子/伴 和史
池田 康二/浅野 恭子/川島 悦子/稲田 薫/松嶋 剛史/守永 浩一/小見山 竹和
泉 勇策/端 信行/加藤 正博/氏家 都子/広井 かほる/與口 修/子川 幹男
菅 祥明/伊谷 須美子/新福 たか子/大黒 洋一/白井 一彦/松元 隆平/尼川 洋子
高橋 度/梶原 靖子/遠田 豊成/岡田 雅幸/中村 保佑/片岡 治/岡部 記代子
森 功/大谷 敏行/林 律子/井上 怜/朴 徹雄

ご支援
ありがとう
ございました!

賛助会員・団体(15団体) 宗教法人満福寺/株式会社ロック・フィールド/ヒューマンスキル研究所
NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん/エンゼルス/NPO法人ジンジャークラブ/NPO法人ホザナ・ハウス
東灘子どもカフェ/NPO法人山びこへるぷ/株式会社神戸サンソ/NPO会計支援センター/株式会社グリーンテクノス
株式会社まんぼう/特定非営利活動法人 薫風/NPO法人ことばルームへようこそ

■寄付者一覧(順不同・敬称略)

企業・団体(11団体) 大和リース株式会社/有限会社 神輝興産/株式会社シカタ/商船港運株式会社
日本郵船株式会社/明治安田生命保険相互会社/NPO法人アートゆるり/株式会社さんふらわあマリンサービス
株式会社マザーネット/NPO法人チャレンジひがしなだ/NPO法人ケアット

個人(16名) 西池 陽一/嶋田 征彦/小林 清隆/高橋 貴之/川島 悦子/落合 弘/佐藤 博史/蒲田 尚史
守永 浩一/尾花 弘教/中村 順子/飛田 敦子/小室 邦夫/山村 弘美/大和 牧美/山崎 速嗣



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104

TEL.078-841-0310 FAX.078-841-0312

E-mail : office@cskobe.com URL : https://www.cskobe.com

CS神戸の紹介動画をつくりました。
ぜひご覧ください。



<https://youtu.be/DfZoZamvwMI>